

# 那須塩原駅周辺まちづくりビジョン (素案)

那須塩原市

令和3(2021)年3月

## -目次-

### -まちづくりについて考えた-ある父と娘の会話-

■ はじめに	那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの策定に当たり	1
■ 第 1 章	那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの位置付け	2
1-1	策定の背景と目的及び目標年次	2
(1)	ビジョン策定の背景	2
(2)	ビジョン策定の目的及び目標年次	4
1-2	ビジョンの効果と成果イメージ	4
1-3	ビジョンの位置付け	5
■ 第 2 章	那須塩原駅周辺の課題	6
■ 第 3 章	ビジョンの基本コンセプト（30年後の目指すべきまちづくり）と ビジョンプロジェクト	8
■ 第 4 章	ビジョンプロジェクト	9
	プロジェクト1 - 市民が愛し誇れるまち	9
	プロジェクト2 - 歴史・文化を感じるまち	11
	プロジェクト3 - 個性を感じるまち	13
	プロジェクト4 - 自然とテクノロジーが調和するまち	15
	プロジェクト5 - 新たな行政の在り方を示すまち	17
	プロジェクト6 - 時代に選ばれるまち	19
	プロジェクト7 - 人と共に成長するまち	21
■ 第 5 章	プロジェクトの実現に向けて	23
5-1	スケジュール	23
5-2	ビジョンの具体化に向けた方向性	24
■ 第 6 章	ビジョン策定に当たっての市民参画の経緯	25
6-1	ビジョン策定までの経緯	25
6-2	市民参画の状況	26
■ 結 び に	那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの策定を終えて	29
■ 附 属 資 料		
(1)	那須塩原駅周辺まちづくりビジョン市民懇談会委員名簿	
(2)	那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議委員名簿	
(3)	宇都宮大学地域演習プロジェクトメンバー名簿	
(4)	宇都宮大学共同研究メンバー名簿	
(5)	グループインタビューの様子	

# ある休日の夜

高校生のなおは父とその日の出来事について話していました。

なお

ただいま。

お帰り、友達と遊びに行ったんだろ？楽しかったか？

父

楽しかったよ！たくさん買い物しちゃった！

あっそういえば、那須塩原駅で友達を待っている時、担任の先生に会ったよ。

へー、お出掛けが？

うん、出張って言ってた。でも早く着いたのに時間を潰せる場所がなくて暇

だって言っててさ、カフェとか欲しいですよねって話を盛り上がったんだ。

確かに、駅周辺はそういう場所が少ないからな。

私は大きなデパートとかが欲しいって言ったんだけど、先生は駅に『那須塩原らしさ』が感じられる物が欲しいって言っててね、お父さんはどう思う？

なるほど、観光客には『らしさ』を感じられる場所があると良いのかもなあ。

そっか。私はそんな事考えたこともなかったから、年齢とか職業によって色々な意見があるんだって驚いたよ。

駅や駅の周りはそこに住んでいる人だけじゃなくて、観光客やサラリーマン、高校生や高齢者、使う人それぞれに色々な意味を持っていて、地域を象徴する大切な場所だってことだね。

色んな人が使う大切な場所だからこそ、活気があった方がいしょね！

でも、どうしたら盛り上がるんだろう？

市役所でも色々考えているみたいだけど、なおはどう思う？

うーん、じゃあ市役所とか大人に任せていけばいいのかな？

でも、なおが感じたみたいに、年齢や職業によって色々な意見があるんだから、色々な人達が関わった方が盛り上がると思わないかい？

私の意見で駅の周りをもっと楽しくなっていったらとっても嬉しいかも！

そうだな。それじゃ、なおが『こんな風になったらいいな』って思う未来が描かれているか、まずはこの冊子を読んでごらん。この中には、

30年後の那須塩原駅周辺がどうなっていたら良いか書いてあるから、

なおが、考えている未来が描かれていると良いね。

あなたの描く那須塩原駅周辺の未来は  
どんな未来ですか？

## ■ はじめに - 那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの策定に当たり -

那須塩原市は、心豊かな人々が暮らし、美しい自然に恵まれた高原都市として、基幹産業である農業や観光業を中心に、商業、工業など多様な産業が営まれるとともに、国道4号、東北縦貫自動車道といった道路やJR宇都宮線、JR東北新幹線といった鉄道が通る交通の要衝であり、恵まれた環境を背景にこれまで一步一步、しっかりと発展の歩みを進めてまいりました。

市長写真

しかしながら、近年の社会情勢・社会環境に目を向ければ、少子高齢化に伴う人口減少や人的資源の枯渇、地球温暖化などに起因する気候変動、大規模化・激甚化し頻発する自然災害、そして新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大等、私たちを取り巻く環境はより過酷なものになりつつあり、社会全体が大きな変革の潮流の中にあることを感じざるを得ません。

こうした状況を一つの背景に、市として改めてまちづくりの未来を考える中で、今後の市勢発展の要ともいえるべき、那須塩原駅周辺の30年後の在るべき姿、これから目指すべきまちづくりを描く『那須塩原駅周辺まちづくりビジョン』を策定することといたしました。

策定に当たっては、市民参画のプロセスを重視し、各種関係団体などから推薦された市民の皆様で構成される「那須塩原駅周辺まちづくりビジョン市民懇談会」において様々な視点から議論を重ねていただいたほか、まちづくりなどに関する有識者で構成される「那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議」から助言をいただくとともに、2,000名の市民の皆様や30年後の那須塩原市を担う高校生の皆さんを対象に「アンケート調査」を実施いたしました。

また、初めての試みといたしまして「オンラインによるワークショップ」を開催したほか、少人数でまちづくりに対する夢や想いを語り合う「グループインタビュー」、国立大学法人宇都宮大学との「那須塩原駅周辺のまちづくりに関する共同研究」なども行い、様々な形の市民参画のプロセスの中で、那須塩原駅周辺のまちづくりに対する沢山の夢や想い、御意見、御提言をいただくことが出来ました。

このビジョンでは、30年後の那須塩原駅周辺の未来を描いております。

これからの那須塩原駅周辺が皆様御自身はもちろん、皆様のお子様や御家族にとって「夢」や「想い」が形づくられたものとなるよう、そして那須塩原市、栃木県北の玄関口として、新たな時代にふさわしいまちづくりのモデルエリアとなるよう、このビジョンの着実な実現と、駅周辺の更なる発展にしっかりと取り組んでまいります。

結びに、ビジョンの策定に当たり御意見、御協力を賜りました市民の皆様をはじめ、関係各位に対し改めて心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

令和3（2021）年3月

那須塩原市長 渡辺 美知太郎

動画配信用  
QRコード



## ■ 第1章 那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの位置付け

---

### 1-1 策定の背景と目的

#### (1) ビジョン策定の背景

那須塩原駅周辺は、これまでも那須塩原市の玄関口としてのみならず、栃木県北・那須地域への玄関口として、このエリアの持つ意義・役割の重要性から、区画整理事業を進めるなど様々な施策が展開されてきました。

しかしながら、JR東北新幹線の開通（昭和57【1982】年）から40年近く経過するも思うよう土地の高度利用が進んでおらず、エリア周辺に駐車場が散在することに表れているように、人々や地域の賑わいに乏しく、東京圏から1時間圏内にあるといった地理的な優位性などのこのエリアが有するポテンシャルが十分に発揮されていない現状にあります。

一方、日本社会全体に目を向けると、少子高齢化や人口減少の流れは変わらず、那須塩原市も平成22（2010）年をピークに、今後も減少の流れが続いていくものと推測されており、こうした少子高齢化や人口減少による人的資源の減少・枯渇は、社会構造や社会経済に多大な影響を与えるものであり、地域社会の維持継続のためにも、出来る限り早期に対策を講ずることが求められています。

また、時代の変遷とともに人々のライフスタイルも多様化してきていますが、今般の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に伴い「在宅勤務」や「Web会議」等のリモートワークといった新たな働き方が定着しつつあるほか、国においてもDX（デジタルトランスフォーメーション）※が推進されるなど、「働き方」そのものが大きな転換期を迎えつつあります。

加えて、大規模化・激甚化する自然災害を経験する中、人々の防災に対する意識は更なる高まりを見せており、安全・安心な都市構造の構築、防災力の強化といった視点は、これからのまちづくりを考える上で欠かすことのできない重要なものとなっています。

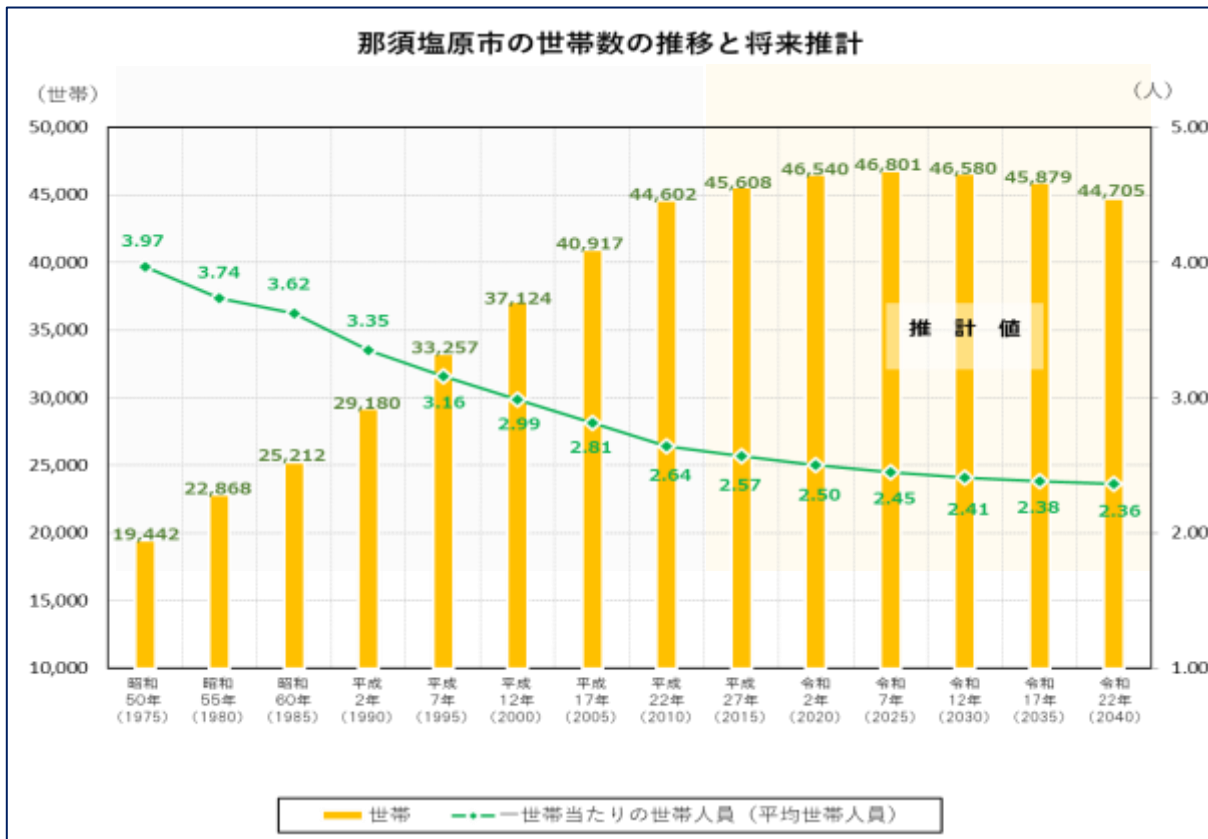
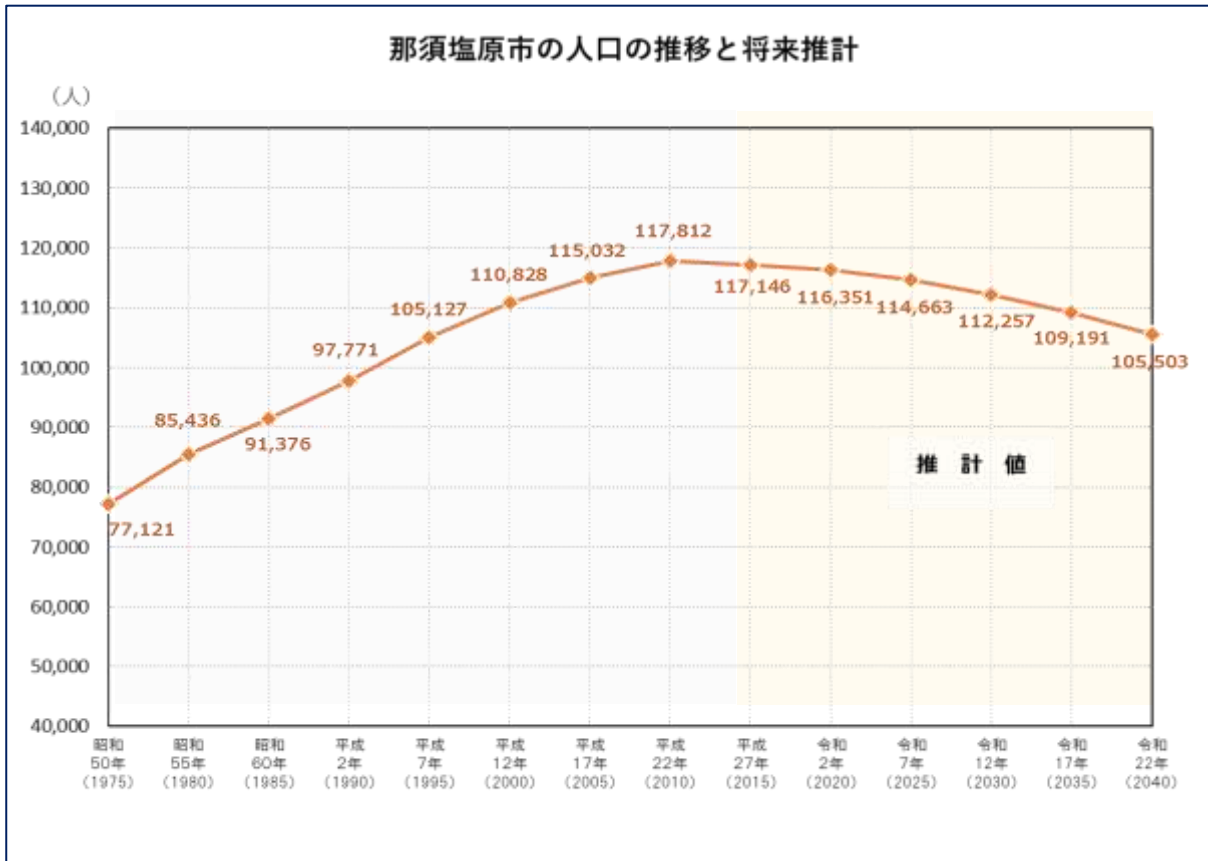
このような那須塩原駅周辺の実態、そして社会環境・時代の変革を背景に、今後、那須塩原市が持続可能なまちづくりを進めていく上で、那須塩原駅周辺の整備・開発はそのモデルとなり得るべき取組と捉え、ここに『那須塩原駅周辺まちづくりビジョン（以下「ビジョン」という。）』を描くことといたしました。

---

《注釈》 DX（デジタルトランスフォーメーション）

：デジタル技術を活用し、ビジネスモデルや業務そのもの、組織等を変革すること。

(参考) 那須塩原市の人口の推移【令和22(2040)年度まで】 - 総合計画より抜粋 -



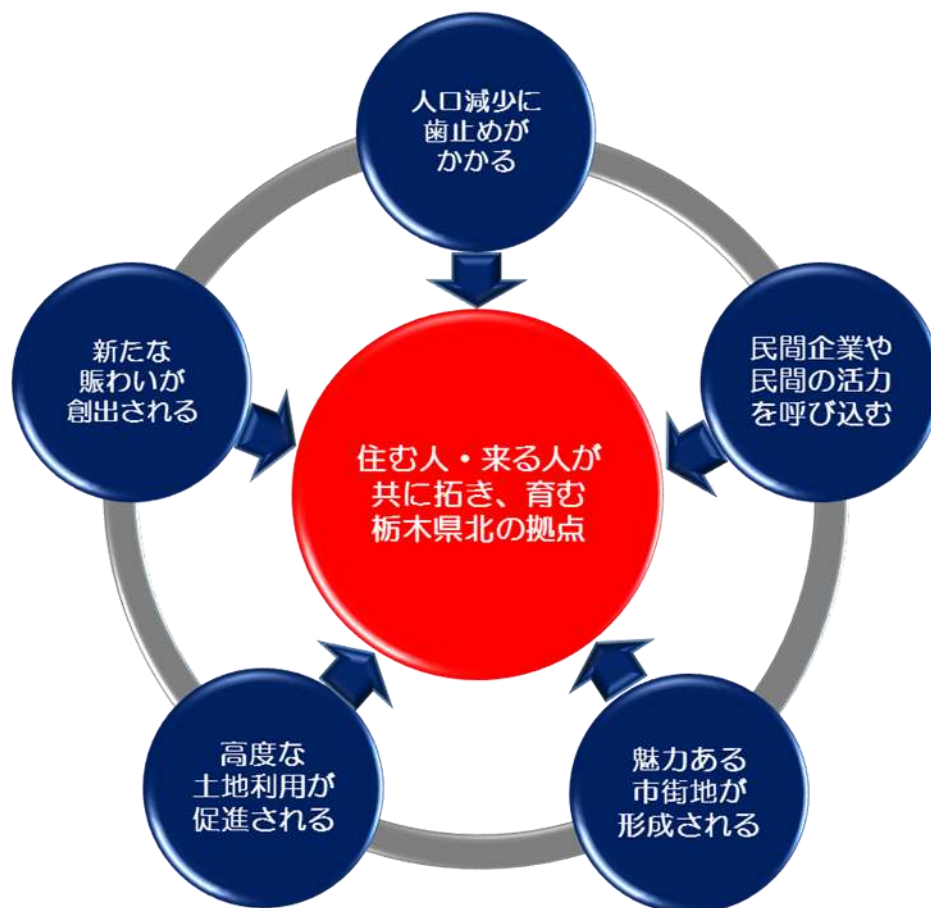
## (2) ビジョン策定の目的及び目標年次

今回策定するビジョンは、那須塩原駅周辺の実情を踏まえ、令和元（2019）年度、那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議において取りまとめられた『那須塩原駅周辺のまちづくりに関する報告書（以下「報告書」という。）』に示された方向性を一つの指針としながら、市民参画の下、この那須塩原駅周辺を、那須塩原市のみならず栃木県の北都の玄関口にふさわしいものとしてどのようにあるべきか、長期的な視点から30年後の令和32（2050）年度を目標年次に、その将来像を描くものです。

そして、ステップを踏みながら、このビジョンに描く将来像を一つ一つ具現化する努力を重ね、まちづくりを進めていくことにより、次のような効果と成果に結び付けていきたいと考えます。

### 1-2 ビジョンの効果と成果イメージ

## ビジョン目標年次：令和32（2050）年度



### 1-3 ビジョンの位置付け

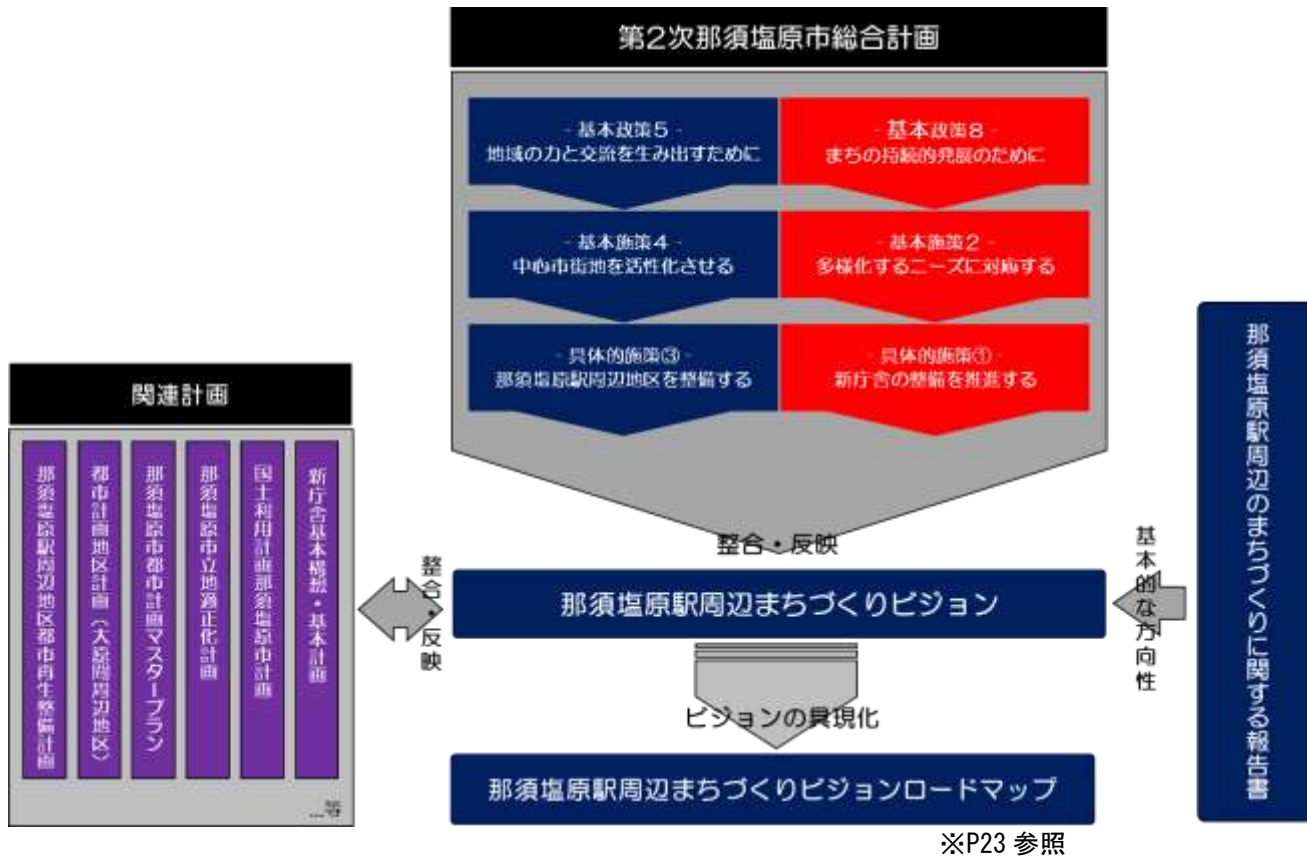
今回策定するビジョンは、『第2次那須塩原市総合計画』を最上位計画としており、その中では二つの項目が掲げられています。

まず一つ目が【基本政策5 - 基本施策4 - 具体的施策③】において「那須塩原駅周辺の土地の高度利用の促進」という課題を解決するための取組として「那須塩原駅周辺地区の整備」を掲げています。次に二つ目として【基本政策8 - 基本施策2 - 具体的施策①】において「市民に親しまれる市役所づくり」及び「行政サービスの利便性の向上」という課題を解決するための取組として、那須塩原駅周辺整備の核となる「新庁舎の整備」が掲げています。

また、このビジョンを策定する上で、那須塩原駅周辺のまちづくりを進めていくための一つの方向性を示すものとして、昨年度、有識者による報告書がまとめられているほか、『那須塩原市都市計画マスタープラン』をはじめ、都市整備関連の各種計画においても、このエリアが那須塩原市のみならず、栃木県北におけるその存在意義や有するポテンシャルの高さから、県北地域の玄関口・広域的な拠点としての都市機能の集積や高度な土地利用、魅力ある市街地の形成等が図られるべきエリアとして位置付けられています。

今回のビジョンはそうした関連する計画等を踏まえつつ、30年後の未来に在るべき那須塩原駅周辺の将来像を描くものです。

#### 【ビジョンの位置付け】





## ■ 第2章 那須塩原駅周辺の課題

平成17（2005）年1月に旧黒磯市、西那須野町、塩原町の合併により誕生した那須塩原市は、合併時の協定事項に基づき、市役所本庁舎を那須塩原駅周辺に移転する計画が立てられるなど駅周辺は今後の発展が見込まれるとともに、東京圏からの玄関口でもある「那須塩原駅」は、東京圏と栃木県北地域つなぐ拠点としてのポテンシャルを持ち合わせていると考えられます。

しかしながら、現状の課題として次のような点が挙げられます。

- 那須塩原駅は観光客による新幹線利用は少なく、交通アクセスの良さを十分に活用できておらず、栃木県北地域の玄関口としての役割を十分に果たしているとは言えない。
- 駅を降りた後の二次交通も観光地への循環バスが少ないなど、利便性の低さが指摘されている。
- 土地利用の高度化が進んでおらず、駐車場としての土地利用が多くみられる。
- 商業施設や飲食店があまりなく、観光客をはじめ、駅周辺を訪れた人々の滞留や回遊を促す要因が少ない。
- 那須塩原市の玄関口としてだけでなく、栃木県北地域の玄関口であるにも関わらず、『拠点』としての魅力を低下させることにつながっている。

こうした現状は、今回のビジョン策定に当たり行った市民（無作為抽出2,000名）を対象としたアンケート調査や市内の県立高等学校4校の生徒（約2,500名）を対象としたアンケート調査の結果にも表れております。

例えば、市民アンケートにおいて、「全体的に人や地域に活気や賑わいがあると感じますか」、「利用したいと思う店舗や施設が充実していると感じますか」という那須塩原駅周辺の印象について尋ねた質問では、「いいえ」と回答された方が「はい」と回答された方のおよそ10倍近くに上る結果となりました。

また、高校生アンケートでは、那須塩原駅周辺が「今後どのようなエリアになれば良いと思いますか」という質問において「人や地域に活気や賑わいがあり、周辺を散策するのが楽しいエリア」や「繁華街や大型店舗など、多くの人が集まる商業施設を中心としたエリア」という答えを選択された方が圧倒的に多い結果となりました。

調査を通じて、年代や職業等を問わず、那須塩原駅周辺に「活気」や「賑わい」「楽しさ」等を求めていることが改めて分かる結果となりました。

今後の那須塩原駅周辺のまちづくりを進めるに当たっては、こうした現状やアンケート調査の結果などを踏まえつつ、これからの発展の可能性やポテンシャルを十分に引き出しながら、駅周辺の魅力をより高めていくことが必要であると考えられます。

(参考) 那須塩原駅周辺の土地利用の状況



### ■ 第3章 ビジョンの基本コンセプト（30年後の目指すべきまちづくり）とビジョンプロジェクト

那須塩原駅周辺の現状や課題、報告書の中で示された方向性、市民懇談会における検討やアンケート調査の結果などを踏まえ、ビジョンの基本コンセプトを次のとおり定めます。

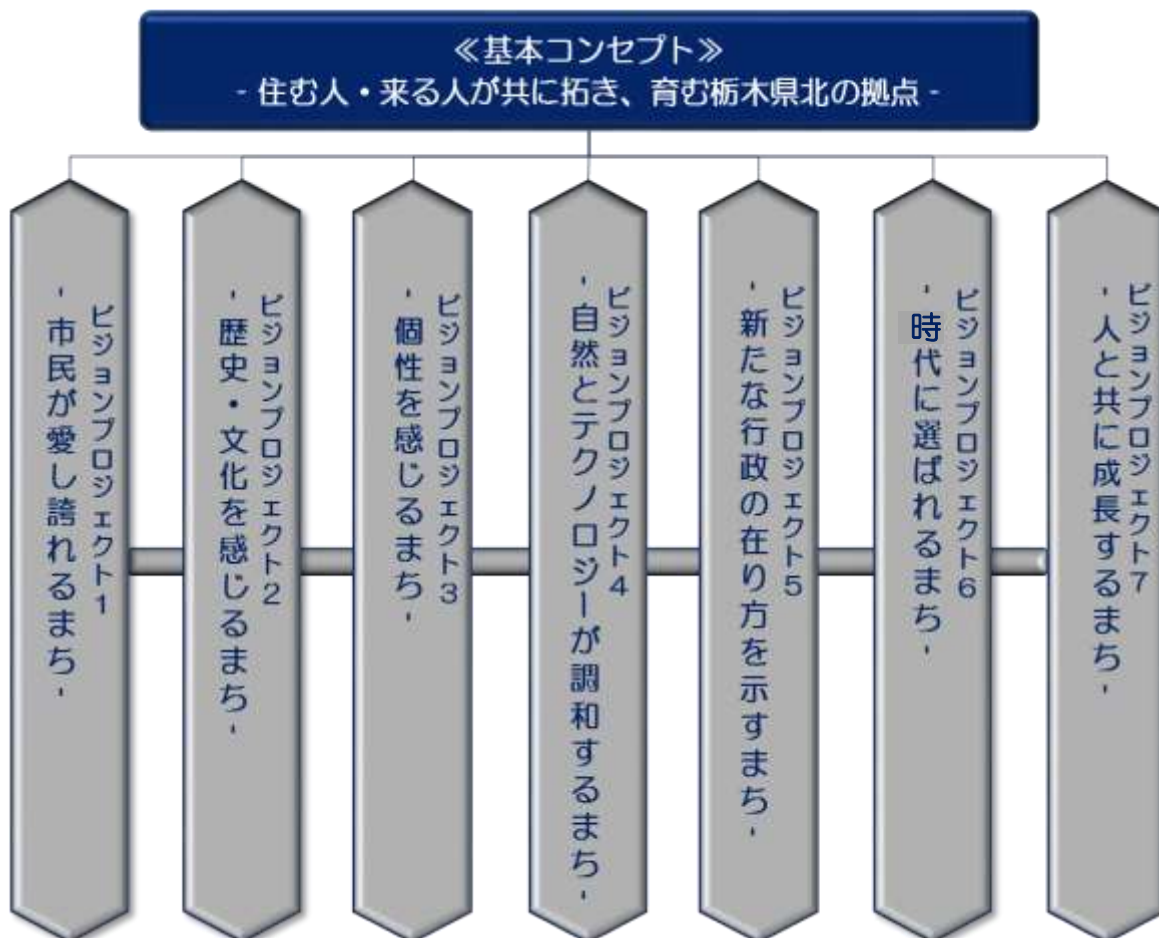
そして、その実現に向け7つのプロジェクトを掲げてまいります。

ビジョンプロジェクト1から6については、報告書において有識者からの提言として「外」からの視点で見出していただいた、これからの那須塩原駅周辺のまちづくりに必要な要素や考え方に、市民懇談会、市民アンケートやグループインタビューといった、これまで重ねてきた市民参画のプロセスを通じ、沢山の市民の皆様から頂いた「内」から見たときのまちづくりに対する夢や想いを加えて30年後の未来を描いていきます。

また、ビジョンプロジェクト7は、こうした市民参画のプロセスそのものを、これからの那須塩原駅周辺のまちづくりに必要な要素として、コンセプト実現に必要なプロジェクトの一つとして掲げることといたしました。

この基本コンセプトと7つのビジョンプロジェクトにより、30年後の未来のイメージを明らかにしていきます。

#### 【コンセプト構成図】





## プロジェクト1-市民が愛し誇れるまち-

### 1【プロジェクトの目的】

市民にとっても、那須塩原市を訪れた方にとっても、愛着が生まれ、「このまちに住んでみたい」「このまちに住み続けたい」と心から思える、次の世代に自信をもって残していける満足度の高いまちをつくる。

### 2【プロジェクトへの提言やアイデア】

#### 《有識者会議からの提言》

- まちづくりには地域への愛着が大切。
- 駅を中心とした市民の巻き込みと外部からの人の呼び込みが重要
- 市のみならず、那須野が原、栃木県北地域全体の玄関口として、その地域を象徴するような駅を目指すべき。
- 観光客のみならず地域の人でも那須全体を楽しめる拠点であることが必要。
- 上質な高原リゾート、東京からのアクセス等の魅力は軽井沢と同様のポテンシャルがある。駅を拠点に魅力を更に高め、認知度を上げていく余地は十分にある。
- まちづくりのイメージの可視化とまちづくりに対する市民の内発性の喚起が必要。
- まちの賑わいは駅周辺を中心に作り上げるのが良い。

#### 《アンケート調査等からの意見》

- 今ある自然や、安心安全は維持しつつ、移動（公共交通機関）や仕事が充実した住みやすいまちが良い。
- まずは住民が住んでいて行きたいお店やくつろげる場所があり、自然と人が集まるようになって欲しい。地元住民が住みやすい場所になって欲しい。そうすれば移住者の増加や観光客も足を止めてくれる場所となると思う。
- 市民参加の花壇を作り、季節の花などを植えてゴミなど捨てることをためらうような、きれいな通りにしたらと思います。
- 活気があって、でも安心して安全で県外から来た人も周辺に住んでる人もまた来たいなと思える場所だといいいかな。
- どの年代にも親しみや情が湧くような場所であり、かつ気軽に買い物などができるような、駅周辺だけでも満足できる時間を作ることができるような場所になったら良い。



### 3【プロジェクトの施策の方向】

- ◆ 都市環境の充実
- ◆ 移住・定住施策の強化
- ◆ 那須塩原市・栃木県北の玄関口としてのブランド化

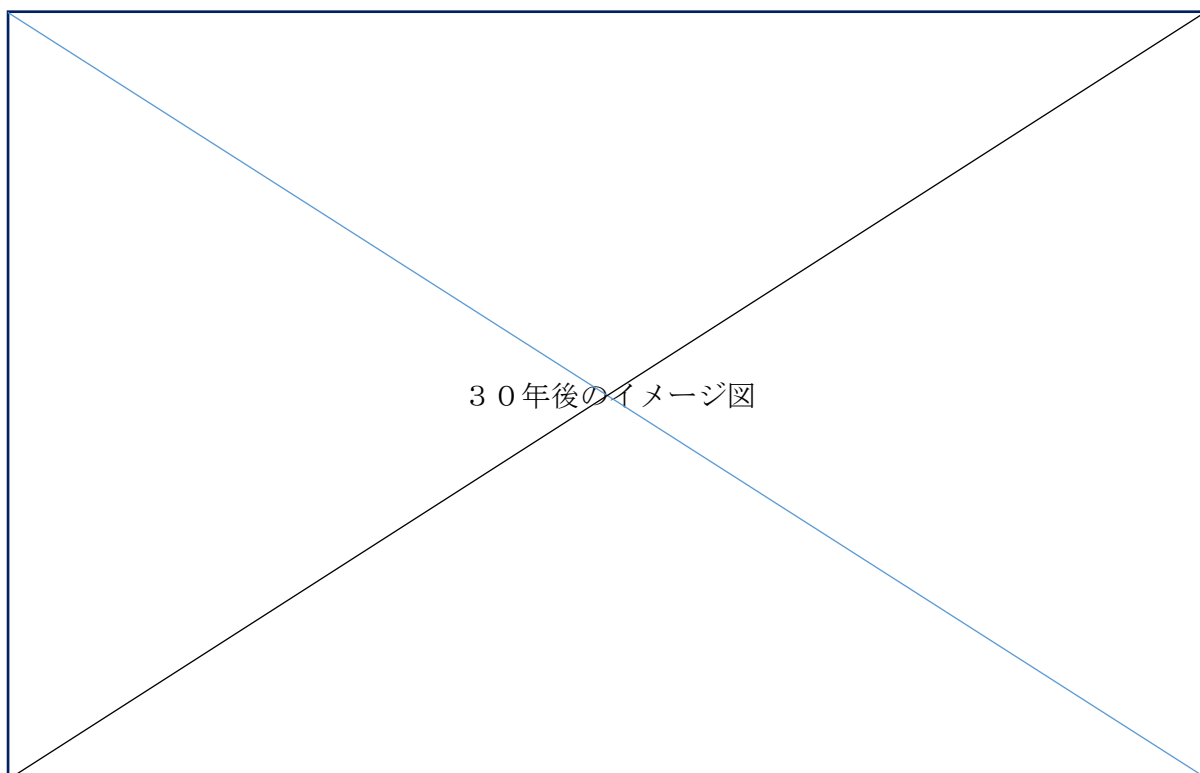
### 4【プロジェクトで描く30年後の未来のイメージ】

那須塩原駅周辺に商業施設が増え、駅周辺の住民をはじめ、そこを目的地として訪れる人も増えるとともに、駅利用者などにとっても回遊性が高まるなど、人々が、日々の生活の中に「活気や賑わい」を感じるとともに、「安全や安心」「癒しや安らぎ」といった「暮らしやすさ」「住み心地の良さ」を感じる環境が整備されている。

そして、そうした環境が整備されることにより、地域に対する「愛着」や「誇り」がより一層育まれ、ほかの人に自慢したくなるようなまちになっている。

また、住民自ら「まちへの愛着」「まちの誇り」等エリアに関する情報を発信し、那須塩原駅周辺の対外的な認知度（魅力度）のアップ、那須塩原駅周辺を中心とした移住・定住者の増加にもつながっている。

### 5【プロジェクトイメージ図】



## プロジェクト2-歴史・文化を感じるまち-

### 1【プロジェクトの目的】

開拓の歴史とそこに生まれた文化遺産を地域活性化のための貴重な地域資源として有効に活用するとともに、これまで受け継がれてきた歴史・文化に触れることにより、市民の心情面における一体感がより醸成されるまちをつくる。

### 2【プロジェクトへの提言やアイデア】

#### 《有識者会議からの提言》

- 大切に語り継がれる那須野が原の開拓の歴史は、まさに地域のアイデンティティ。
- 日本遺産にも認定されたこの歴史をまちづくりに積極的に活かしていく必要がある。
- 市町村合併の背景も踏まえ、開拓の歴史などをテーマとしたイベントを駅周辺で開催し、市民の拠り所として一体感の醸成につなげていくことも有用。
- 皇族が利用する駅を有するエリアとして、まちなみにはそれにふさわしい風格も必要。

#### 《アンケート調査などからの意見》

- 歴史や文化のイメージがもっとあるといいなと思います。
- 皇室が訪れる玄関口でもあるので、品格のある景観であって欲しい。皇室だけでなく有名な著名人も利用されている事が有ると思いますので、県北の良さが感じられるエリアであると情報発信（県外の方々にPR）。
- 歴史や地域の特色を生かし、大都市には真似のできない、特にソフト面でのきめ細やかな居心地の良さを追求して頂きたいと思います。
- 物産展を含め、飲食店、カフェ、ショッピングアーケードなど、駅を利用する人だけでなく地域の人たちも“行ってみたい”があるまちづくり。子供達に歴史博物館（那須にちなんだもの）があっても面白いではないかと思います。

### **3【プロジェクトの施策の方向】**

- ◆ 歴史や文化の継承（担い手づくり）
- ◆ 歴史・文化の共有に向けた教育、イベントの開催
- ◆ 文化財の積極的な活用

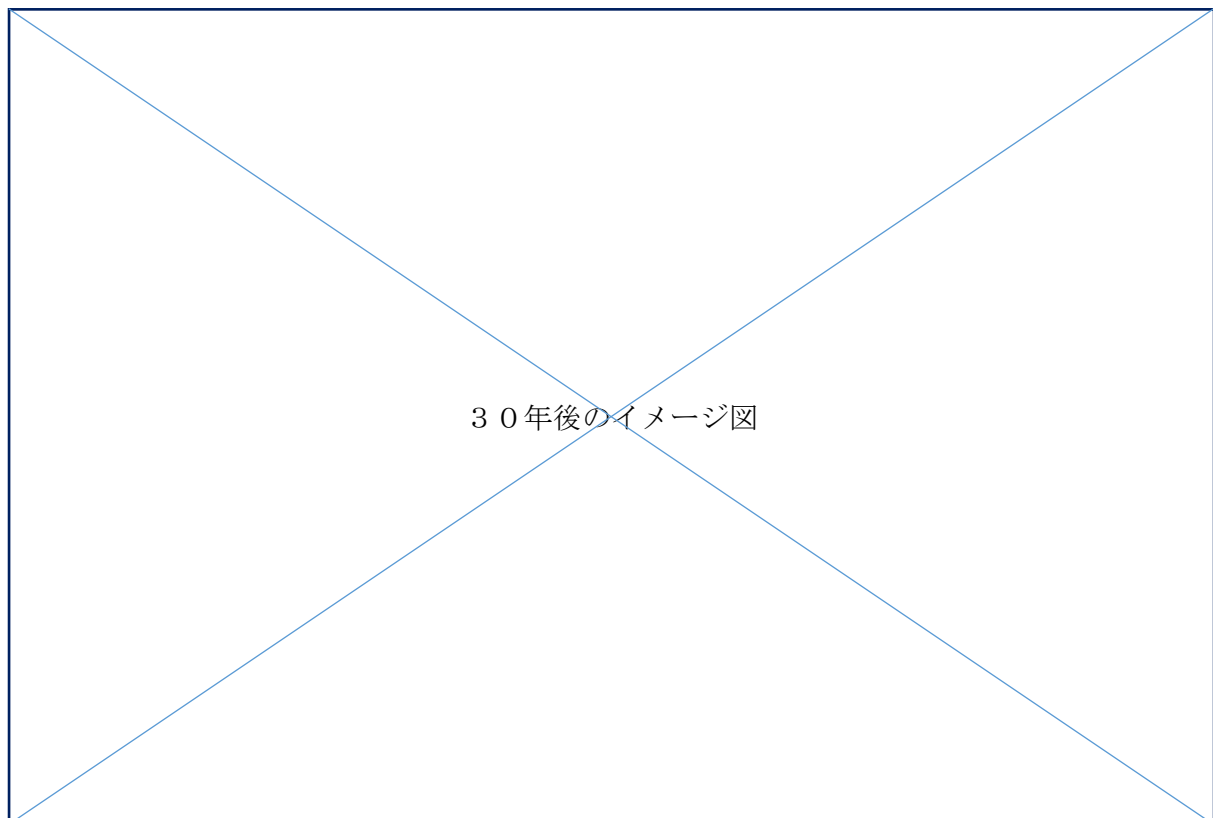
### **4【プロジェクトで描く30年後の未来のイメージ】**

那須塩原市や那須野が原の開拓・発展の歴史、伝統や文化、それらを今に伝える地域に散りばめられた文化財などを誰でも日常的に「学ぶ」「知る」ことが出来る環境が整備されるとともに、担い手によりしっかり継承されている。

また、駅を出発点として、文化財を巡る周遊交通機関なども整備され、観光客だけでなく、市民も容易に「訪れる」ことが出来るようになるなど、歴史や文化が、日々の暮らしの中に「感じる」ことができるまちになっている。

また、市民を中心にそうした歴史や文化を活用したイベント等が行われ、人々の中の歴史や文化に対する関心や理解が深まるとともに、SNS等を通じて対外的にも本市の歴史や文化が広くPRされ、誘客の一つの資源になっている。

### **5【プロジェクトイメージ図】**



# プロジェクト3-個性を感じるまち-

## 1【プロジェクトの目的】

那須塩原駅から見える那須連山の眺望、星が輝く澄んだ夜空等を通じて、那須塩原市や那須地域が持つ特有の魅力を感じることができるとともに、「観光」等の拠点として那須地域全体、栃木県北全体の魅力も感じる事ができるまちをつくる。

## 2【プロジェクトへの提言やアイデア】

### 《有識者会議からの提言》

- 駅を降りた後に広がる素晴らしいスカイラインと那須連山の景観をもっと活かすべき。
- 駅前全体に大掛かりな施設が必要というわけではなく、地域全体のことが分かる地域の魅力を凝縮した様々な要素が集まったパッチワーク型の施設があれば、駅前の雰囲気を変えることができる。
- インバウンドの少なさが観光面における課題の一つ。
- 市内の主要観光地を上手く周遊するための二次交通の充実が重要。市内にとどまらず那須地域全体の観光を活性化にもつながる。
- テクノロジーの進歩等による新たな交通環境の展開を想定し、鉄道利用者の拡充を図ることが必要。
- 自然の景観はもちろん、街並みの景観も重要であり、そのためのコントロールも重要。
- 豊かな自然の中に庁舎が顔を覗かせる駅前の在り方も良いのではないか。

### 《アンケート調査などからの意見》

- 自然の豊かさは、那須塩原市の魅力なので、それを残しつつ、人の集まる施設もあると良い。
- 那須の特性を持つ県北観光の拠点にふさわしく、地元民も含め観光客が駅前周辺を快適に散策、滞留しやすい魅力的な街づくり、環境作りが重要。
- 那須塩原駅前に那須のシンボルとしてふさわしい像等を建てて、那須をもっとアピールし観光客を呼び込めば、今まで以上に活気が出て経済も発展すると思います。
- 大都市の真似事をして、追いつくわけではなく意味がない。利便性（新幹線）＋景観（自然を生かした、おしゃれな街並み）＋人との交流を軸に、新しい発展の形を構築できると良い。



### 3【プロジェクトの施策の方向】

- ◆ 那須塩原市の魅力の再確認と付加価値
- ◆ 景観の維持・保全及び積極的な活用
- ◆ 二次交通網の充実・強化

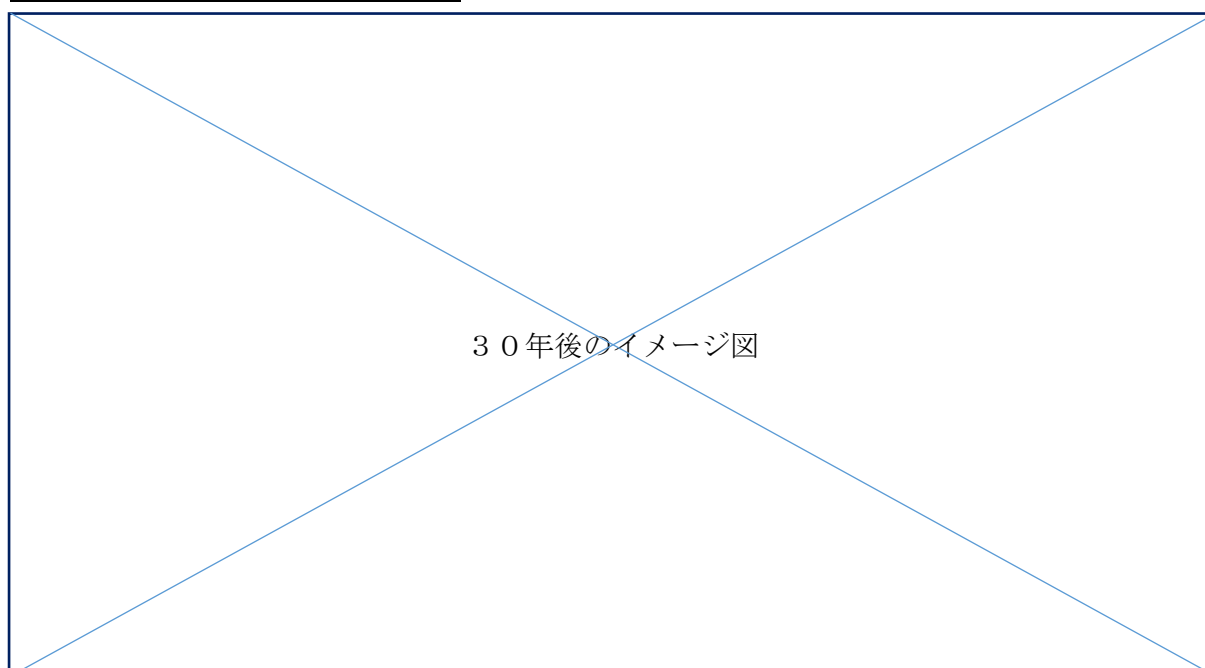
### 4【プロジェクトで描く30年後の未来のイメージ】

那須塩原駅を降りると、本市の「らしさ」をイメージさせるモニュメント（人工物）と那須連山の山並み、星が瞬く澄んだ夜空等の風景（自然物）が出迎えとともに、駅前には那須塩原市や那須エリアの観光地、特産物等をインフォメーションする施設等が整備されるなど、駅を降りた瞬間から「那須塩原らしさ」「那須らしさ」を感じられる空間が形成されている。

また、那須塩原駅及びその周辺をターミナルとして、観光はもちろんのこと、ビジネスなどで訪れた方にも対応した二次交通網が整備され、駅周辺を訪れた人達がストレスを感じることなく、必要なエリアに移動することが可能になっている。

こうした環境により、那須塩原市、そして那須塩原駅周辺を訪れた方の中に、より良い「那須塩原らしさ」が印象付けられ、那須塩原市に愛着や関心、興味を寄せてくる方、那須塩原市移住者や定住者の増加にもつながっている。

### 5【プロジェクトイメージ図】



# プロジェクト4-自然とテクノロジーが調和するまち-

## 1【プロジェクトの目的】

自然とテクノロジーが調和し、先端技術を活用した新たな働き方・多様なライフスタイルが実践されるとともに、ひと本来の生活に必要な「癒し」が得られるまちをつくる。

## 2【プロジェクトへの提言やアイデア】

### 《有識者会議からの提言》

- デジタルを活用し、魅力をより広範囲に届け、その効果を計測して機能させるサイクルが大切
- 先端技術の積極的な活用を図り、多くの人々が集まる機会やきっかけを生み出し、まちそのものに活気を与える。
- 東京圏までのアクセスの良さを活かし、ワーケーション（ワーク×バケーション）等多様な働き方を実現するスマートタウンの拠点としての整備なども考えられる。
- 世界のデジタル革命先進地が豊かな自然を背景に食や農につながる環境にあるという実態は、那須塩原市のポテンシャルに通じるものがある。
- テクノロジーの追及は人間にとってストレスの問題にもつながる。
- テクノロジーと自然（癒し）の相乗効果により那須塩原のブランド力を高める。
- ターゲットを明確にし、ここに住みたいと思ってくれる人々を増やす事が、今後の更なる持続的な発展につながる。

### 《アンケート調査などからの意見》

- 昨今のリモートワーク等の推進・一極集中見直しの流れの中で、少し足を延ばせば山があり大都会への距離も程良いこの地域は、人が働き生活する基盤となれる土地だと思う。
- 新型コロナウイルス感染症によって生活や仕事のスタイルが一変してしまいました。この変化に取り残されることなく、サテライトオフィス、ワーケーションなどを意識したまちづくり企画や急速に脚光を浴びているデジタル関連企業の積極的な誘致など安定した経済基盤の構築についてもまちづくりビジョンに反映して欲しい。
- 自然とテクノロジーが融合したまちづくりを行って下さい
- 分都やワーケーションをコンセプトに計画されると良いと思う。現在、自然豊かな環境があり、それを充分活用できると思う。その玄関口としてのまちづくりが必要と考える。

### 3【プロジェクトの施策の方向】

- ◆ デジタル環境の整備・充実
- ◆ サテライトオフィス・ワーケーションに係る施策の充実
- ◆ 観光施策との連携

### 4【プロジェクトで描く30年後の未来のイメージ】

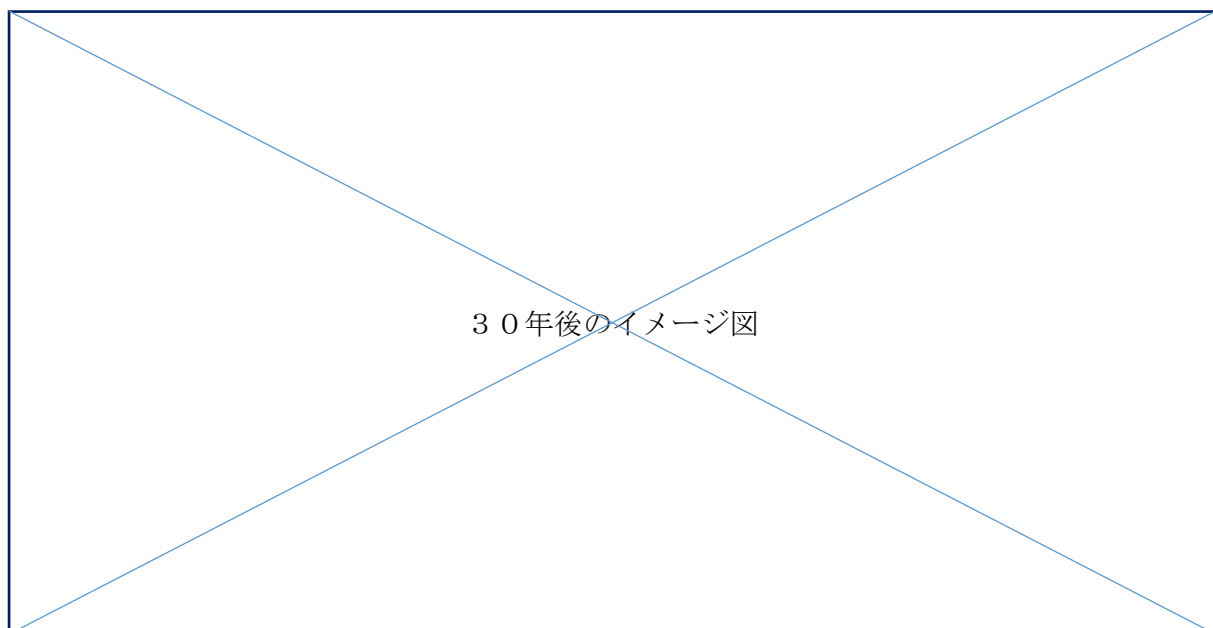
東京などへのアクセスの優位性が広く認知されるとともに、駅周辺のデジタル環境の整備・強化が進み、東京圏に本社を構える企業のサテライトオフィス等が駅周辺に定着するなど、多様な働き方が実践されている。

こうしたデジタル環境の整備は、鉄道を利用する観光客やビジネスマンをはじめ、学生や市民の利便性向上にもつながっている。

また、市内の温泉地区等においてもデジタル環境の整備が進み、ワーケーションに適したエリアとして全国的な認知が進むとともに、従来、那須塩原市が有している豊かな自然環境がもたらす「癒し」などとの相乗効果によって、本市が持つ「観光地（非日常）」としての魅力の充実が図られるとともに「職場（日常）」としての新たな価値が生み出されることにより、企業の誘致、それに伴う移住や定住人口の増加などにつながっている。

加えて、そうした環境の変化に伴い、従来、駅周辺において駐車場用地として利用されてきた土地も新たな利用形態への転換が進んでいる。

### 5【プロジェクトイメージ図】



# プロジェクト5-新たな行政の在り方を示すまち-

## 1【プロジェクトの目的】

新たな時代に相応しい行政機能を有し、公共サービスの効率性や利便性の向上、災害対応力の強化を図るとともに、那須塩原市、栃木県北の玄関口としての象徴・ランドマークとして、人と人とのつながりを創り、そこから新たな価値や魅力が生まれるまちをつくる。

## 2【プロジェクトへの提言やアイデア】

### 《有識者会議からの提言》

- 新庁舎は環境に配慮したオフィスとして率先して先端技術を活用し、駅周辺のまちづくりにおける、景観形成において先導的な役割を果たすことが期待される。
- 庁舎は市の象徴。文化・歴史やアイデンティティを感じられるようなものであるべき。
- 庁舎の機能は、行政手続の将来予測を踏まえ、長期的な視点で検討する必要がある。
- 市民活動の結節点としての役割も重要。人の往来を生み出すためには、従来の普通の「箱」ではなく、様々な要素が複合化したものであることが考えられる。
- 市役所は市民が集まる場所であり、コミュニティ形成の強化に資する機能も必要。
- 人と人とが交流することで新たな価値を生み出す、市民が集まりやすいオープンな場所であることが必要。
- 官民連携（PPP）では、ハード整備だけではなくソフト面での連携も大切。
- 庁舎には核となるようなものを残しつつ機能を分散するとともに、自然を残していくという在り方も考えられる。
- 庁舎の建物の在り方も、時代の様々な変化に対応できるよう、柔軟性を持った、フレキシブルなデザインであっても良いのではないかな。
- 駅には商業施設的なものを集積し、庁舎は人と人との交流の場としての役割を担うものとし、全体の景観の中で一体的に繋がっているイメージが良いのではないかな。

### 《アンケート調査などからの意見》

- 駅周辺に全てを網羅する一極集中ではなく、行政機関を中心に、ここから色々な情報等を発信する「発信基地」（コールセンター的）とし、それ以外は、市全域がバランス良い配置（色々な施設、店など）を考えてもらいたい。
- 他県にて、家賃収入がある市役所があるとの事、事務所や店舗等、面白いと思う。高さ制限の件も含めて、又、外観よりも使いやすい市役所になるといいと思う。



### 3【プロジェクトの施策の方向】

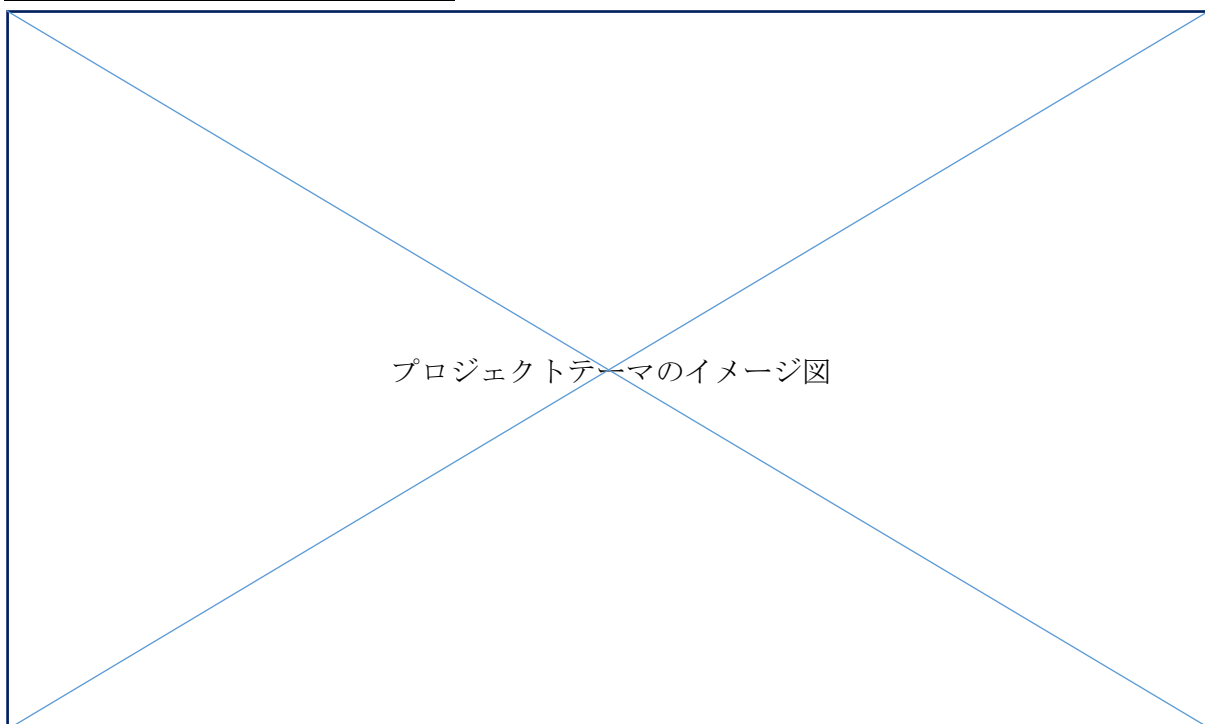
- ◆ 新庁舎及び駅前空間の整備
- ◆ 新庁舎周辺の道路網・インフラ環境の整備
- ◆ 民間活力の導入

### 4【プロジェクトで描く30年後の未来のイメージ -】

新たな庁舎は、「デジタル化の推進」「新たなリスク管理」等、時代の潮流を見据えた機能を備えるとともに、本市のランドマーク施設としての「那須塩原市らしさ」や県北の玄関口に構える庁舎として「那須エリア」を感じる事ができる空間を有し、庁舎そのものの利用価値・存在意義が高まり、市民にとってのアイデンティティを備えた、シンボリックな建物として、行政手続きだけでなく様々な利用目的で市民が訪れる場所となっている。

また、こうした庁舎を核として、周辺エリアの道路網等のインフラストラクチャーの整備等、駅周辺のまちづくりが進み、市内外からのアクセス性の向上、駅周辺への店舗等の増加等に伴い、那須塩原駅周辺における人々の回遊性も高まり、駅周辺における新たな人の動きが生まれる等、更なる「賑わい」や「魅力」の創出、人や事業者の流入、土地利用の高度化等、まち（エリア）全体の活性化が図られている。

### 5【プロジェクトイメージ図】



# プロジェクト6-時代に選ばれるまち-

## 1【プロジェクトの目的】

首都機能の地方分散、国のバックアップ機能の受け皿の一候補地など、より大局的な見地から、栃木県北地域など広域的な拠点となるまちをつくる。

## 2【プロジェクトへの提言やアイデア】

### 《有識者会議からの提言》

- 交通の要衝として、那須塩原市のみならず栃木県北地域における交通網の拠点（ハブエリア）としてのまちづくりが求められる。
- 自治体間の広域的な連携強化を進める那須塩原市にとって、駅周辺はそれら広域圏の拠点たるに相応しい環境を整備する必要がある。
- 首都機能の東京一極集中のリスクが顕在化する中、本市は「災害に対する安全性」「東京圏へのアクセスの容易性」、また「国会等移転先の候補地とされた過去の経緯」等を有している。
- 中央省庁をはじめとする首都機能の地方分散の受け皿、バックアップ地としての役割を果たすポテンシャルを秘めている。
- 気候変動対策等、那須塩原市が国や他の自治体に先駆けた取組を実践しており、こうした環境政策を通じて地域課題を解決し、市民が安心して幸せに暮らせる持続可能なまちの構築を見据える必要がある。

### 《アンケート調査などからの意見》

- 観光を考えると那須町との協力の上で進める事も必要。
- 中央省庁を誘致して欲しい。一つでも誘致されれば様相は一変するだろう。
- 那須塩原市は地球環境保全に貢献できる再生可能エネルギー施設やCO2を還元する豊かな自然環境を保有しているので、これをアピールするような施設が有っても良い。
- ゼロカーボンシティへの取組を、行政だけではなく、アートや、いろんな分野との協力や繋がり、市民にとっても責任ある行動を堅苦しくないイメージで広め、実践していけるような街になって欲しい。
- 今後の地球環境の変化（災害が多くなる等）やCO2ゼロ宣言など、他にない新しい視点でのまちづくりに対応できるエリアとして期待したい。そういう所には、人々は集まりコミュニティが築かれていくのでは。

### **3【プロジェクトの施策の方向性】**

- ◆ 首都機能の地方分散等に向けた機運の醸成及び受け皿となる魅力の創出
- ◆ 広域圏における道路網の整備等、自治体間の連携強化
- ◆ 持続可能性の追求、環境政策等を通じた地域課題の解決

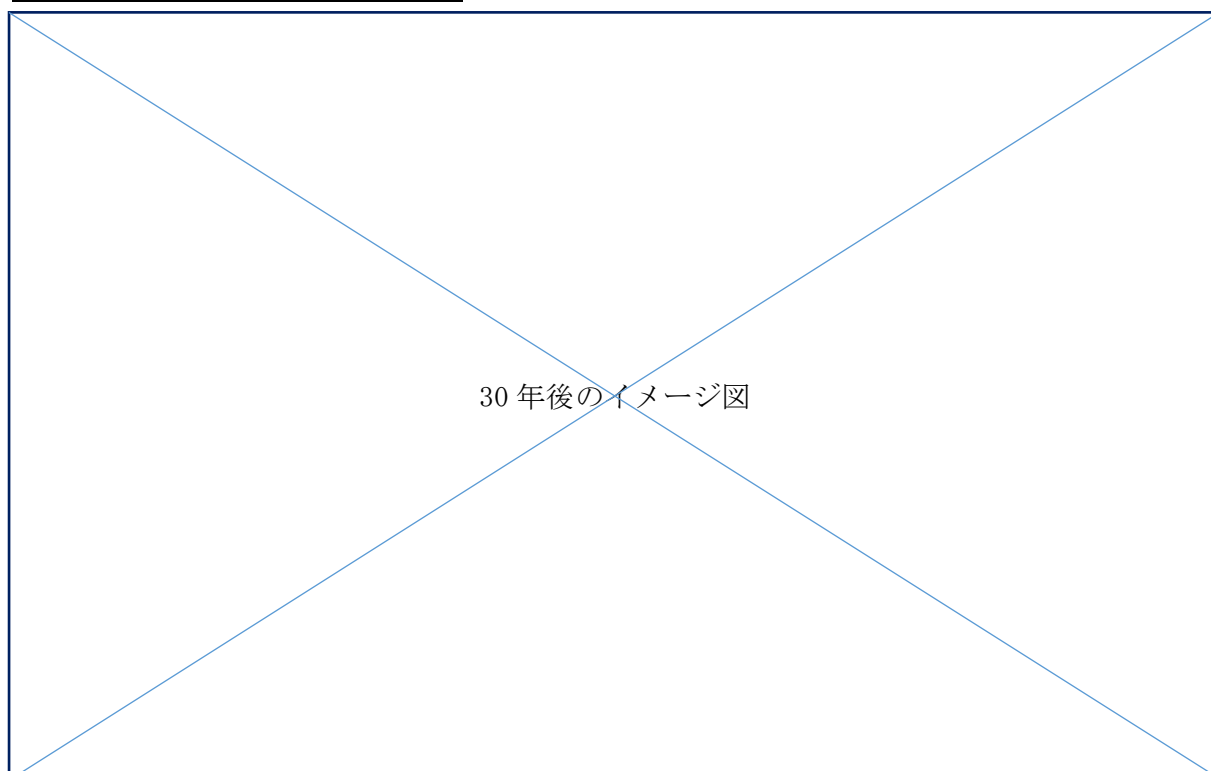
### **4【プロジェクトで描く30年後の未来のイメージ -】**

「首都圏とのアクセスの容易性」「災害リスクに対する高い安全性」といった那須塩原市が有する地域の優位性などから、市内への首都機能の一部移転が実現し、玄関口でもある那須塩原駅周辺を中心に、インフラストラクチャー等の整備とともに、気候変動への対策等、那須塩原市が全国に誇る取組を生かしたまちづくりが進んでいる。

また、首都機能の一部移転に伴う関係者の移住や定住が進み、人口減少に歯止めがかかるとともに、移転機関への通勤者により那須塩原駅の利用者数も増加し、それらをターゲットとした新たな「賑わい」や「活気」が駅周辺に生まれている。

加えて、本市を中心とする広域圏の連携強化や新たな広域圏の形成などが図られるとともに、圏域内のヒトやモノの交流・流通がより活発に行われるようになり、広域圏内における更なる一体感が創出されている。

### **5【プロジェクトイメージ図】**



# プロジェクト7-人と共に成長するまち-

## 1【プロジェクトの目的】

様々な市民参画等のプロセスを通じて得られた人材が、那須塩原駅周辺のまちづくりの担い手として継続的に関わるとともに、市民がまちづくりへの関心を失うことなく継続的に担い手として参画する環境を整え、より高い次元で市民など多様な担い手との協働が実践されるまちをつくる。

## 2【プロジェクトへの提言やアイデア】

### 《市民懇談会、グループインタビューなどからの意見》

- まちづくりへのニーズは人それぞれ。異なって見えるニーズの共通点などを見つねながら進めることが大切。
- 行政だけではなく、様々な担い手と連携し、まちづくりに対する想いを出来得る限りすくい、生かしていくことが肝要である。
- まちづくりに関心のある多種・多様な人材や担い手との出会いにより、まちづくりの手法等が広がる。

### 《アンケート調査などからの意見》

- 多くの人が意見を言える場が欲しい。
- まちづくりに皆が話し合っ、身近な事を感じ楽しめたら良いかも。
- まちづくりを担うのはこれから大人になる子どもたち。  
地区にある高校から代表を募り、そういった計画を定期的かつ、何年間かにわたって行っていくのは大切（必要）だと思う。
- 若者の人材育成とアイデアを取り入れた環境作り。
- もっと多くの人が意見を言えて、まちづくりに参加できる場、イベントがあればと思う。人と人との関わりがもっともっとできる施設などが欲しい。
- 都会の街並みを目指すのではなく、市民全体で考え、一体感のある街を作って欲しい。独自性があり活気があれば、人はたくさん来ると思います。
- 発揮出来ていない魅力的な要素や人材がたくさんあると思うので、そういった人々が集い、市に貢献できる企画や機会をどんどん計画して頂きたいとします。

### 3【プロジェクトの実現に向けたキーワード】

- ◆ 市民参画プロセスへの理解の深化と機運の醸成
- ◆ 市民参画プロセスの仕組みづくりや担い手づくり
- ◆ 市民、自治会、NPO法人、事業者等多様な担い手との連携強化

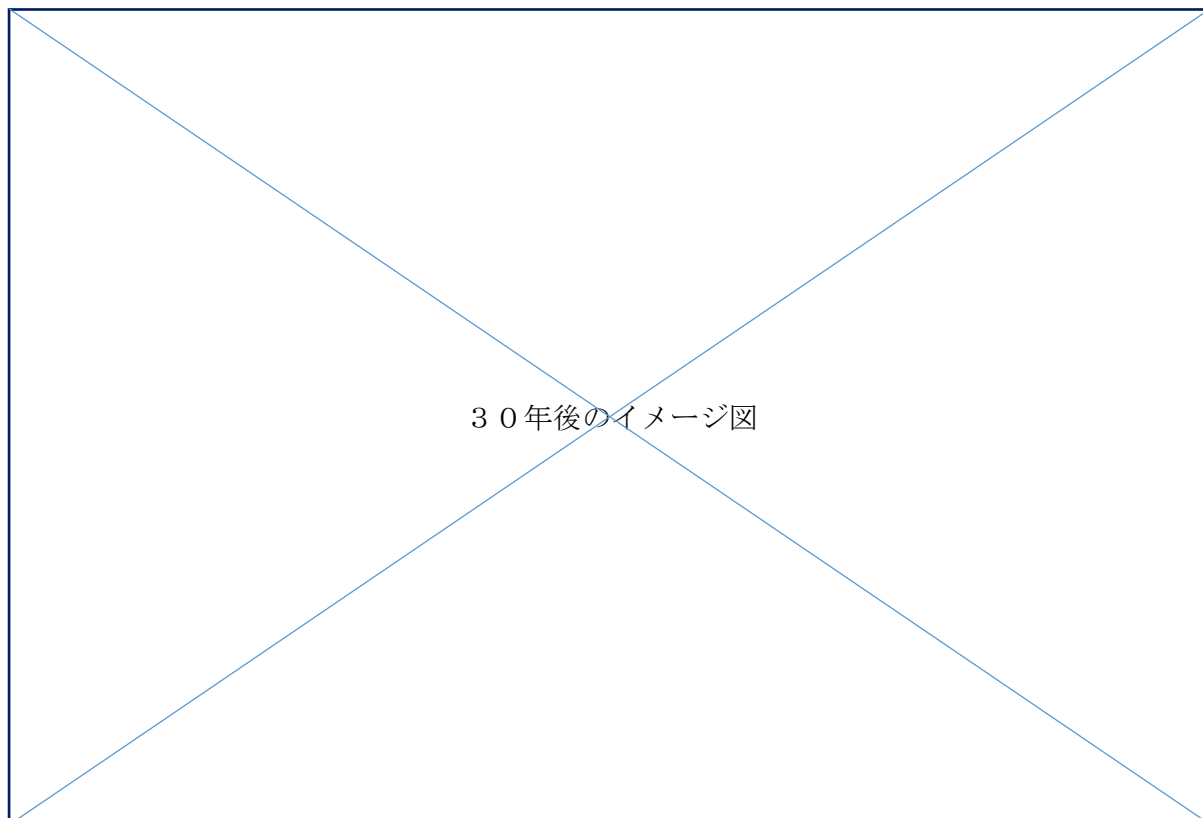
### 4【プロジェクトで描く30年後の未来のイメージ -】

まちづくりに対する夢や想いを持っている市民をはじめ、まちづくりの大切なパートナーの一つである自治会、まちづくりに取り組んでいる市民団体、まちづくりなど専門的な知見を有する有識者、まちづくりに関心のある民間企業などからなる『那須塩原市版まちづくりシンクタンク』が構築され、それらと行政が一体となって、多種・多様な知見と視点を持ってまちがつくられている。

また、まちづくりに関するネットワークも広がり、民間活力の導入など、民間企業との連携によるまちづくりが積極的に行われるようになっている。

併せて、市民の中に「市政への市民参画」の素地が根付き、まちづくりの担い手が継続的に生まれている。

### 5【プロジェクトイメージ図】

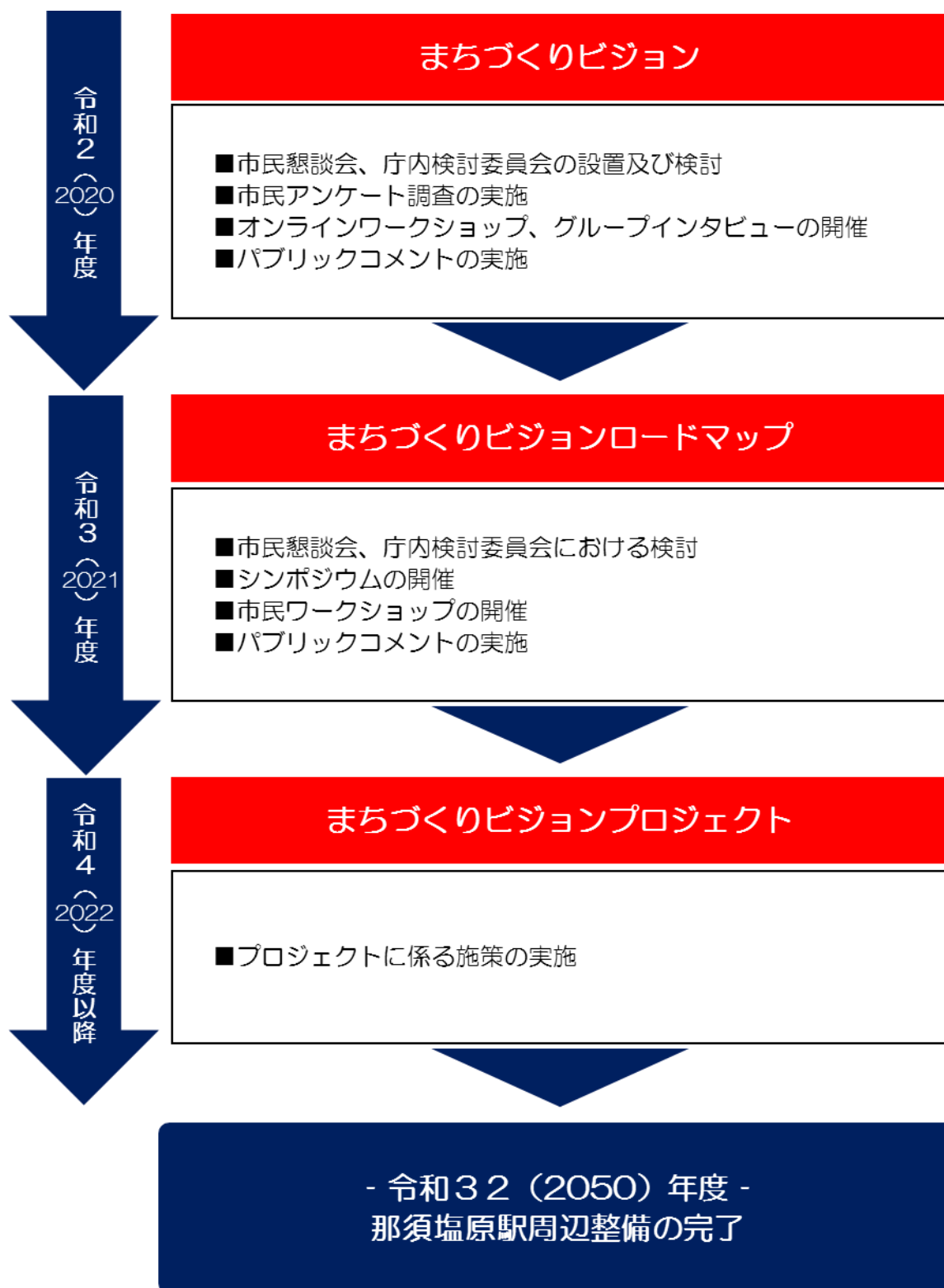




## ■ 第5章 プロジェクトの実現に向けて

### 5-1 スケジュール

ビジョンを具現化していくための行程を次のとおり示します。



## **5-2 ビジョンの具体化に向けた方向性**

ビジョンを具体化するための主な方向性・方策を次のとおりとし、ビジョンに掲げた将来像の実現に向けて、着実に取り組んでいきます。

### **(1) 民間活力の積極的な導入及び導入を促す新たな魅力の創出**

- PPP（Public Private Partnership）※等の活用を積極的に検討するとともに、駅周辺への民間事業者の進出支援の方策を検討する。
- 駅周辺の道路網等、都市基盤の整備を計画的に進め、駅周辺及び駅周辺エリアへのアクセス性の向上に努める。
- 景観等に配慮しつつ、建築物の高さ制限などに関し、その有効性や緩和の必要性等について検討する。

### **(2) 市民との協働によるまちづくりの更なる推進**

- 地域の継続的な発展、まちづくりの維持のため、地元住民を中心とした市民との協働によるまちづくりを担う組織づくりを支援する。
- 継続的な協働のまちづくりの素地の醸成、担い手の創出に努める。

### **(3) 多種多様な事業手法の検討と積極的な活用**

- 行政効率、財政負担の軽減などを念頭に、事業の計画・実施に当たっては様々な角度から事業手法を検討するとともに、多様な視点をもって財源の確保に努める。
- 所管が異なる複数の事業が同時に展開されるような場合、円滑な事業推進が図られるよう必要に応じて協議・調整の場を設ける。

---

≪注釈≫PPP(Public Private Partnership)：

官民連携。民間事業者の資金やノウハウを活用して社会資本を整備し、公共サービスの充実を進めていく手法。

## ■ 第6章 ビジョン策定に当たっての市民参画の経緯

### 6-1 ビジョン策定までの経緯

開催日／場所等	会議名	会議内容
令和2(2020)年 8月 4日 ／303会議室	第1回庁内検討委員会	位置付け、骨子案、スケジュール、アンケート調査の説明
令和2(2020)年 8月19日 ／303会議室	第1回 ワーキンググループ会議	位置付け、骨子案、スケジュール、アンケート調査の説明
令和2(2020)年 8月26日 ／オンライン	第1回市民懇談会	位置付け、骨子案、スケジュール、アンケート調査の説明
令和2(2020)年 9月12日 ～10月 2日まで	市民アンケート調査	アンケート調査の実施
令和2(2020)年10月15日 ～10月22日まで	高校生アンケート調査	アンケート調査の実施
令和2(2020)年11月10日 ／オンライン	オンライン ワークショップ	市民6名とのオンラインによるワークショップを実施
令和2(2020)年11月18日 ／オンライン	第1回有識者会議	アンケート調査結果の検証 将来予測等に関する助言
令和2(2020)年11月28日 ／東那須野公民館	グループインタビュー	市民13名とのグループインタビューを実施
令和2(2020)年12月 4日 ／書面協議	第2回 ワーキンググループ会議	ビジョン(素案)に関する協議、 アンケート調査結果の報告
令和2(2020)年12月14日 ／303会議室	第2回庁内検討委員会	ビジョン(素案)に関する協議 アンケート調査結果の説明
令和2(2020)年12月15日 ／オンライン会議	第2回市民懇談会	ビジョン(素案)に関する協議 アンケート調査結果の説明
令和2(2020)年12月22日 ／オンライン会議	第2回有識者会議	ビジョン(素案)に対する助言
令和2(2020)年12月23日 ～令和3(2021)年1月22日	市民意見募集 (パブリックコメント)	ビジョン(素案)について市民から 広く意見を募集
令和3(2021)年 1月27日 ／オンライン会議	第3回市民懇談会	最終稿のまとめ
令和3(2021)年 2月 日 ／書面協議	第3回 ワーキンググループ会議	最終稿のまとめ
令和3(2021)年 2月 日 ／303会議室	第3回庁内検討委員会	最終稿のまとめ
令和3(2021)年 2月 日 ／オンライン会議	第3回有識者会議	最終稿のまとめ
令和3(2021)年 2月24日 ／303会議室	庁議	ビジョンの庁内最終決定
令和3(2021)年 3月	3月議会	議決

## **6-2 市民参画の状況**

まちづくりビジョン策定に当たっては、そのプロセスにおいて【市民参画】の部分をより重視しながら取組を進めてきました。

各取組の経緯、概要等は次のとおりです。

### **【1】那須塩原駅周辺まちづくりビジョン市民懇談会の設置**

- (1) 目的 ビジョン策定に当たっての諮問的機関として、策定プロセスにおける公正の確保や透明性の向上を図るとともに、市民参画による開かれた市政を推進し、市民の声や提案等をビジョンに反映する。
- (2) 構成 多分野の各種団体等からの推薦による委員15名で構成(名簿はP31に掲載)
- (3) 経緯 全3回開催(オンラインにより実施)

### **【2】那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議からのアドバイス**

- (1) 目的 ビジョンの策定に当たり、令和元(2019)年に作成された「那須塩原駅周辺のまちづくりに関する報告書」において示されたまちづくりの方向性から、素案に対する助言等を行う。
- (2) 構成 各分野の有識者4名で構成(名簿はP32に掲載)
- (3) 経緯 全3回実施(オンラインにより実施)

### **【3】市民アンケートの実施**

- (1) 目的 広く市民を対象に那須塩原駅の利用頻度、那須塩原駅周辺のまちづくりに対する「夢」や「想い」を聞き取り、ビジョン策定の基礎資料とする。
- (2) 概要
  - ① 調査期間 令和2(2020)年9月12日から10月2日(21日間)
  - ② 調査対象 無作為抽出した市民2,000人
  - ③ 調査内容 まちづくりに関する設問【選択式】及び自由記述意見【記述式】及び回答者の属性に関する設問
  - ④ 調査方法 調査票用紙による回収及びWebからの回答
- (3) 結果 回答率 57.7%(回答者数1,153人)

#### **【4】高校生対象アンケートの実施**

- (1) 目的 30年後の那須塩原市の担い手たる高校生を対象に那須塩原駅の利用頻度、那須塩原駅周辺のまちづくりに対する「夢」や「想い」を聞き取り、ビジョン策定の基礎資料とする。
- (2) 概要
  - ① 調査期間 令和2（2020）年10月15日から10月22日（8日間）
  - ② 調査対象 市内県立高等学校（4校）全生徒 2,470名
  - ③ 調査内容 まちづくりに関する設問【選択式】及び自由記述意見【記述式】及び回答者の属性に関する設問
  - ④ 調査方法 市ホームページのアンケート調査機能を使用したWebからの回答
- (3) 結果 回答率 38.9%（回答者数960人）

#### **【5】オンラインワークショップの開催【国立大学法人宇都宮大学との共同研究Ⅰ】**

- (1) 目的 那須塩原駅周辺のまちづくりに関する市民の声を直接すくい取る。
- (2) 概要
  - ① 実施期間 令和2（2020）年10月10日
  - ② 実施対象 参加を希望した市民6人
  - ③ 実施方法 Web会議システム「ZOOM」を使用し、オンラインでワークショップを行った。なお、共同研究の一環として、参加者からの意見の書記及び取りまとめなどサポート役として宇都宮大学の学生も参加した。（名簿はP32に掲載）

#### **【6】グループインタビューの開催【国立大学法人宇都宮大学との共同研究Ⅱ】**

- (1) 目的 那須塩原駅周辺のまちづくりに関する市民の声を直接すくい取る。
- (2) 概要
  - ① 実施期間 令和2（2020）年11月28日
  - ② 実施対象 参加を希望した市民14人
  - ③ 実施方法 インタビュアー1名又は2名と4～5名の参加者で一つのグループを構成し、「グループインタビュー」※と呼ばれる手法を用いて、那須塩原駅周辺のまちづくりに関して「夢」や「想い」を語り合った。なお、共同研究の一環として、インタビュアー役や書記役などとして宇都宮大学の学生も参加した。（名簿はP32に掲載）

##### **※グループインタビュー**

：少人数のグループで司会役がテーマに沿って質問を行い、座談会形式で、参加者が自由に意見を出し合いながら議論を深めていくワークショップの方法の一つ



## **【7】国立大学法人宇都宮大学地域デザイン科学部 地域プロジェクト演習の実施**

(1) 目的 国立大学法人宇都宮大学地域デザイン科学部に属する3つの学科（コミュニティデザイン学科・建築都市デザイン学科・社会基盤デザイン学科）の学生が混生でグループを編成し、地域プロジェクトパートナーである自治体などと連携しながら、地域課題の解決策の提案などに取り組むプログラムの一種。

令和2（2020）年度、那須塩原市企画部那須塩原駅周辺整備室を地域プロジェクトパートナーとして、那須塩原駅周辺の活性化をテーマに実態調査・活性化に向けた研究・提言をまとめる演習を実施した。

(2) 概要

① 研究内容 那須塩原駅周辺のまちづくり

② メンバー 宇都宮大学の複数の学科のメンバーで編成（名簿はP32に掲載）

③ 研究成果

◆ビジョンの導入部分を作成した。

◆高校生を対象としたアンケート調査結果の分析及び報告書を作成した。

◆高校生アンケート調査の結果を元に、那須塩原駅周辺の店舗等を記した周辺マップを備えたテーブルを作成し、ベンチとともに那須塩原駅に一定期間設置するとともに、利用者の動向調査等を行った。

## **【8】パブリックコメントの実施**

(1) 目的 ビジョン（素案）に対する意見を広く聴取する。

(2) 概要

① 実施期間 令和2（2020）年12月23日～令和3（2021）年1月22日

② 実施方法 ビジョン（素案）について、市ホームページへの掲載並びに那須塩原駅周辺整備室、西那須野支所総務税務課及び塩原支所箒根出張所の各窓口で冊子を備え付け縦覧に付し、所定の様式にて意見の提出を受け付ける。

③ 実施結果 1件（詳細は市のホームページに掲載）

■ 結びに - 那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの策定を終えて

---

コメント

## 《附属資料》

---

**(1) 那須塩原駅周辺まちづくりビジョン市民懇談会委員名簿**

(敬称略)

役職	氏名	所属	分野
委員長	石井 大 <sup>だい</sup> 一 <sup>いち</sup> 朗 <sup>ろう</sup>	宇都宮大学 地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科	学識経験者
委員	橋本 秀 <sup>ひで</sup> 晴 <sup>はる</sup>	自治会長連絡協議会	自治会
委員	小出 清 <sup>きよ</sup> 子 <sup>こ</sup>	地域婦人会連絡協議会	女性
委員	安藤 義 <sup>よし</sup> 孝 <sup>たか</sup>	民生委員・児童委員協議会連合会	福祉
委員	西田 由 <sup>ゆ</sup> 記 <sup>き</sup> 子 <sup>こ</sup>	子ども・子育て会議	子ども
委員	室越 礼 <sup>れい</sup> 一 <sup>いち</sup>	NPO法人 なすしおばらまちづくりプロジェクト	まちづくり
委員	三本木 強 <sup>つよし</sup>	東那須野地区ふれあい推進協議会	まちづくり
委員	泉 洋 <sup>よう</sup> 平 <sup>へい</sup>	(一社)黒磯那須青年会議所	青年・若者
委員	田中 利 <sup>とし</sup> 幸 <sup>ゆき</sup>	那須野が原青年会議所	青年・若者
委員	濱野 将 <sup>まさ</sup> 行 <sup>ゆき</sup>	県北わかものラボ	青年・若者
委員	大島 小 <sup>さ</sup> 織 <sup>おり</sup>	那須塩原市商工会	商工
委員	大倉 太 <sup>た</sup> 喜 <sup>き</sup> 生 <sup>せい</sup>	西那須野商工会	商工
委員	柏木 千 <sup>ち</sup> 春 <sup>はる</sup>	流通科学大学 人間社会学部 観光学科	観光
委員	村山 茂 <sup>しげる</sup>	駅前広場運営協議会	観光・交通
委員	山本 和 <sup>かず</sup> 宏 <sup>ひろ</sup>	ジェイアールバス関東株式会社 西那須野支店 (4月～11月)	交通
委員	横須賀 孝 <sup>たか</sup> 浩 <sup>ひろ</sup>	ジェイアールバス関東株式会社 西那須野支店 (12月～3月)	交通

## (2) 那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議委員名簿

(敬称略)

氏名	役職等
わくい しろう 涌井 史郎	東京都市大学 環境学部 特別教授
おばな れいじ 小場瀬 令二	国立大学法人 筑波大学 名誉教授
やましま てつお 山島 哲夫	宇都宮共和大学 副学長
まつおか たけお 松岡 拓公雄	亜細亜大学 都市創造学部 学部長

## (3) 宇都宮大学地域演習プロジェクトメンバー名簿

(敬称略)

氏名等		所属学部・学科
顧問	おおもり のぶあき 大森 宣暁	地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科 教授
学生	いただ ちか 板田 知佳	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科
	わかばやし はるか 若林 遥	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科
	とよやま たくみ 遠山 拓海	地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科
	まえだ けい 前田 啓	地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科
	やまや けいご 山谷 慧悟	地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科
	なかじま たけき 中島 猛生	地域デザイン科学部 社会基盤デザイン学科

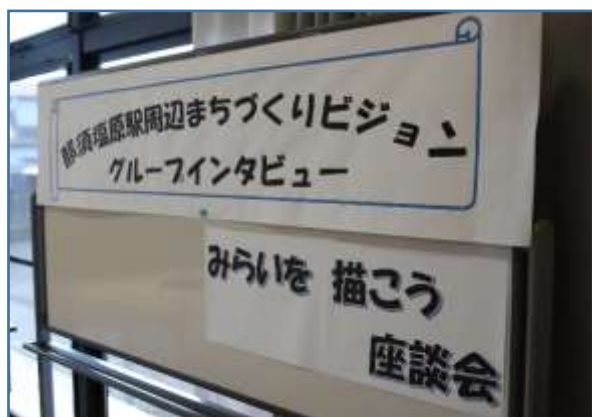
## (4) 宇都宮大学共同研究メンバー名簿

(敬称略)

氏名等		所属学部・学科
顧問	いしい だいいちろう 石井 大一郎	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科 准教授
学生	くまくら よしと 熊倉 義人	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科
	すずき もえ 鈴木 萌	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科
	なかむら あきひこ 中村 皓彦	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科
	なかやま あゆみ 中山 歩美	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科
	まつい ひな 松井 日菜	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科
	むらい なつみ 室井 奈津美	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科
	わかばやし はるか 若林 遥	地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科



(5) グループインタビューの様子 (テーマ：みらいを描こう座談会)



夢や想いの語り合い (1班)



夢や想いの語り合い (2班)



夢や想いの語り合い (3班)



夢や想いの語り合い (3班)



夢や想いの語り合い (1班)



夢や想いの語り合い (2班)



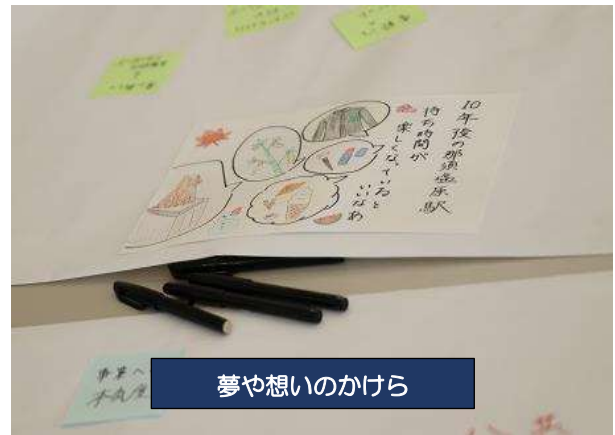
夢や想いを語ります (1班)



夢や想いを語ります (2班)



夢や想いを語ります (3班)



夢や想いのかけら



夢や想いのかけら



たくさんの夢や想いの結晶



夢や想いをまとめます

# NASUSHIOBARA



## 那須塩原駅周辺まちづくりビジョン

令和 3(2021)年 3 月

発 行 那須塩原市

<http://www.city.nasushiobara.lg.jp/>

編 集 企画部 那須塩原駅周辺整備室

〒325-8501 栃木県那須塩原市共墾社 108-2

TEL:0287-62-9254/FAX:0287-62-7220

E-mail: [nsekisei@city.nasushiobara.lg.jp](mailto:nsekisei@city.nasushiobara.lg.jp)